

第6回八王子市歴史遺産活用検討会  
議事録

日時 令和元年7月22日(月)午後6:30～8:30  
場所 生涯学習センター（クリエイトホール） 第2学習室

1. 検討事項

(1) 八王子市歴史文化基本構想について

市 7月22日版の歴文構想素案を事前にお送りした。分量が多いため十分にお目通しいただけていないかもしれないが、お気づきの点についてご意見頂戴できればと思う。素案の全体の流れを整理した参考資料を付した。資料を説明する前に、前回、前々回皆様に頂いたご意見に対してどのような検討を行ってきたかをまず報告する。大きなところでは章立てについて、参考資料の流れを意識した形で整理をしている。以前の検討会で、3章はまず特徴を書き、どういう分析で出てきたのかという見せ方の順番や、3章から4章にかけての関連文化財群に向けたつながり、5～8章のつながりの部分が弱いというご意見を頂いた。参考資料の流れをベースに、各章のつながりを意識して内容を精査した。

3章の地区ごとの特徴を合併前の10地区で整理しようとしているが、地理的・歴史的な成り立ちなどを踏まえた区分にはどうかというご意見を頂いた。地域区分については様々な考え方があがるが、本構想を組み立てるうえで、市民の皆さんにとって身近なところにある歴史文化資源を再認識し、それを八王子全体の特徴につなげて捉え、歴史文化資源の活用を考えてほしいとの思いがあり、市の成り立ち・歴史的経緯を踏まえて、合併前の市町村区域の10地区で特徴を抽出することとした。

文化財が実際の場所から移動していることについて、今の場所だけでなく、もともとあった場所での意味も語る必要があるというご意見を頂いた。他の地域に移動した歴史文化資源について記述する際には、どのような歴史的意味があってどういう経緯で元の場所から移動して今に至っているのか、しっかり整理するようにした。

同じく3章の特徴の抽出で、文化財の羅列となっており、ストーリーを感じられないというご意見を頂いた。3章はそれぞれの地区に存在している八王子の歴史文化の特徴を語り、保存・活用に取り組んでいくために必要な歴史文化資源を取り上げることに主眼を置いて整理をしている。4章の関連文化財群でストーリーを語ることで、3章では基本的にはキーワードで整理をしている。

1章の八王子の概要について、あっさりしすぎている、他の資料からコピー＆ペーストしている印象というご意見を頂いた。基本的には市史や郷土資料館の刊行物を引用している。コピー＆ペーストの印象については、書きぶりを整理することで対応した。

本構想は、八王子の地域の歴史や文化を網羅するものではなく、地域の歴史や文化の理解に不可欠な必要最小限のもの、文化財の保存・活用につながる要素というところで特徴を抽出して、意図的にシンプルに書いている。

4章の関連文化財群で、7番目に里山を取り上げている。里山というよりは郊外で高度成長を支えた「多摩ニュータウン」を取り上げるべきではとのご意見を頂いた。市も「多摩ニュータウン」を本構想の中でどう描くかということは認識している。一方で、八王子の特徴として「豊かな自然と人々の暮らしの共生」も重要なテーマであり、関連文化財群のテーマとしては里山の内容はそのままとし、多摩ニュータウン地域については古代の遺跡と絡めて描いた。

関連文化財群の活用事例や用語について、キャッチーだが根拠が明確でない言葉に市がお墨付きを与えているように見えるとのご意見について、根拠を明確に説明できるものをピックアップして整理した。表現や事例は市民の皆さんに伝わりやすいものを選んでいくつもりだが、大前提として誤りがないこと、誤解を与えないことは最重要であり、その意識で進めている。

基本方針における保存・活用の考え方や今後の取組みの中で「継続的な調査」について記述が薄い印象があるというご意見を頂いた。継続的な調査は重要なことと認識しており、今後策定する文化財保存活用地域計画など保存・活用の様々な取組につなげていくために調査・研究は重要であると位置づけて、基本方針の1番目の柱、5章の3(1)で文化財の継続的な調査・研究としてしっかり掲げた。

八王子の概要の中で、観光や観光客を分析するうえでショッピングに触れている点について、買い物も観光と捉えてよいのかというご意見を頂いた。本市の観光行政では、アウトレットモールや道の駅への来訪者も観光客として捉えており、観光施策と整合した捉え方と考えている。

全体を通して、写真や図版の使用許諾の整理に時間がかかるという指摘を頂いた。現時点でも冊子の中に「暫定」として掲載しているものがあるが、随時掲載できる写真を選定し、掲載について関係者に確認を取るなど、調整・手続きを進めている。

繰り返しになるが、文言の整合性が取れていない、誤字脱字など、お気づきの点等ご意見を頂戴したい。

市 他にも多くの意見を頂戴したが、内容を精査して加除修正した。ご指摘頂いた箇所の修正状況や修正内容についてご意見いただきたい。

- ・ 細かい点については多々あるが全体的に収斂してきている。第4章八王子の関連文化財群で、はちおうじ物語1～10までであるが、98ページ(2)関連文化財群の構成の下の表と並び順が異なる。はちおうじ物語のその1などのナンバーを表の空欄に付記してもらえると分かりやすい。表の順番に、はちおうじ物語1～10が続くと思ったらそうではないので、番号があったほうが読み手としては分かりやすい。
- ・ 98ページの表について、この順番にしたことに意味はあるか。

市 98 ページの表は、ストーリーの特色区分を優先して並べている。どちらに順序を合わせるかは検討したい。いまのところ関連文化財群の 1～10 については、おおよそ時系列に沿って並べており、ストーリーの特色区分の 3 区分で並べ替えるかどうかは再考したい。

- ・ 97 ページ。下の表の中にある「オモイ」は、「思い」としたほうがよいのでは。

市 3 章冒頭、3 章最後、4 章冒頭あたりについては、前回から新たに書き加えたページなので、何かあればご意見いただきたい。

- ・ 220 ページもある大変な基本構想になったと思うが、全体のバランスを見ると、1～180 ページくらいが現状把握に費やされている。181～196 ページくらいで課題を挙げていて、197～220 の 20 数ページで基本構想の基本方針を挙げています。基本構想の目的が持続可能な文化財の保存・活用のマスタープランとなるものであるのに対し、本来の目的を達成するための部分が全体の 10 分の 1 くらいのページになっているのが気になった。

また第 4 章のはちおうじ物語で、99 ページ～179 ページまで約 80 ページ入っている。これが、全体の 3 分の 1 くらいを取っている。この部分は別冊にしてしまうことを考えてもよいかと思った。関連して、目次の「2. はちおうじ物語（関連文化財群）」という見出しが 99 ページに入っていないので、その見出しを入れたほうがよい。一個人として、はちおうじ物語は写真があつてとても目を引くが、厚さの割に本来の目的の部分が少なく、バランスが悪いという印象を持った。別冊にすることで、本来の基本構想をアピールできるようになれば良いと思った。

もう一点、181 ページあたりで現状と課題が文章で書かれているが、わかりにくい。表にしたものを入れたほうがよいのでは。下半分が空白になっているスペースを活用するなど考えられる。

市 見出しの欠落はさっそく修正する。

全体のバランスは事務局でも悩んだところで、他市の事例を見ても同様な傾向が見られ、歴文構想ではある程度仕方ないと考えているところ。前段の部分と構想の部分がどこからどこまでなのかということが分かりづらくなるので、インデックスを付けるなどデザイン的にメリハリをつけて工夫していきたいと考えている。

関連文化財群を別冊にする点について、別冊で見ても分かるようにという考えはもっている。電子データの形であれば、多くの人に冊子がいきわたり、PDF で分割したりということに対応できると考えている。関連文化財群を見れば、八王子の歴史文化の特徴が一定程度理解できる構想でありたいと考えている。

現状と課題について、文章の羅列になっているのはその通りなので、見やすいように整理したい。

- ・ 新郷土資料館が視野に入っていると認識しているが、基本方針の中の今後に向けた文化財の保存と活用について、新郷土資料館の今後のイメージや構想図を 1～2 ページ

入れてはどうか。今後の新郷土資料館整備の工程が見えず気になった。あえて入れなかったのかとも思ったが、見直しをお示しいただきたい。

全体的な文字のフォントについて。資料編だけ丸ゴシックであれば全て明朝体。最近丸ゴシック体が見やすいと言われており、好みもあるだろうが、全体的に丸ゴシック体にするこも、委員の皆さんのご意見も含めて、検討いただきたい。

市 新郷土資料館基本構想・基本計画については、そのものを見てもらいたいということで歴文構想の位置づけの中で整理した。歴文構想はその上位に位置するものであり、新郷土資料館の概要については、新郷土資料館基本構想・基本計画を見ていただくようにという一定の整理をしている。

市 フォントについては、全体の整合が取れていない状況であるが、完成形の中で見やすいデザインにするよう検討していく。市民の皆さんが一番見やすいフォントが大事だと思うが、行政の中では最近丸ゴシックをあまり使わない傾向がある。

- ・ 行政の文書のフォントもいろいろ決められているかもしれないが、一般的に丸ゴシックが見やすいと個人的には思った。

市 現状では202ページに一文だけだが新郷土資料館の整備を進めていくことをはっきり書いている。

市 本構想は、歴史文化のことを書いており、市民の興味を引きつけるものになるので、本構想の中で新郷土資料館に触れたほうがよいということか。

- ・ 基本構想を読んで、郷土資料館の今後に夢がないと感じた。新しいアーカイブを網羅した素晴らしい新郷土資料館であるとアピールしてもよいと感じた。
- ・ 11ページの交通の状況について、都市計画道路整備状況の図が入っているが、凡例がカラーでないので、交通網について全然わからないと感じた。製本されたときに見やすくなるのならよいが、現状のものではわかりにくい。

市 白黒でお配りした関係もあったと思う。最終的にはカラーにする。文章では鉄道にも触れているが、図に示されていない。現在の図でよいのかも含めて、文章の内容とマッチした分かりやすいものに精査する。

- ・ 11～12ページ観光の記述で、「ショッピングが60パーセント以上～」「高尾山や陣馬山などへの行楽目的が20パーセント～」とあるが、この数値が図表からは読み取れない。

市 説明できる図表を付す。

- ・ 19ページ土砂災害の最後のところで、「東京都では土砂災害警戒区域～を指定しています」とだけ書いてあり、唐突感がある。例えばどこが指定されているなどの説明が必要ではないか。

また、219ページ「2. 文化財保存活用地域計画の策定と文化財の保存・活用の推進」で「具体的な取組を展開していくための体制作りや施策の実施計画について文化財保護法に基づく『文化財保護活用地域計画』を策定します」とあるが、「施策の実施計

画について地域計画を策定します」という文章はおかしい。「施策の実施計画となる、文化財保護法に基づく地域計画を策定します」がよい。

市 市民に公表するのが10月1日パブコメになるので、それまでに精査を進めて素案作成を進めていく。最終バージョンはまたお示しするが、その時点では必要に応じてカラーでお配りする。

- ・ 19ページの土砂災害特別警戒区域について、HPにハザードマップが載っているので、詳しくはそれを参照としてもよいかもしれない。

市 「ア 河川氾濫・洪水」でもハザードマップがあるはずだが記述がないので整理する。

- ・ 「東京都では」というのをなくしてもよいかもしれない。

市 1章で、前は「3 八王子の災害」と「4 歴史の変遷」の順が逆だったが、災害だけ唐突感があるという意見があり、「2 自然環境」の流れの次に「災害」を入れて、そのあとに「歴史の変遷」とした。

- ・ 書き足してほしいのが、最初の1~2ページ。「歴史文化基本構想は～」というところで、本市の歴史文化を特徴づける関連文化財群を設定することの趣旨は、これまでの文化財保護行政では文化財について関連せずに個々で取り組もうとしてきたことを反省して、ストーリーにして活用を図っていこう、みんなに郷土愛を持っていただくということが趣旨である。しかし、関連文化群の構成文化財をその周辺の文化財と共にストーリーを生かして、いかに文化財保護につなげていくかという視点がなくなっていると感じた。日本遺産は関連文化財群の中で一番の押しとしたいものを八王子として立候補するもの。ストーリーの中で関連文化財群を地域振興や教育行政にどのように生かしていくのか、ということのひとつを日本遺産にする。10個それぞれにやり方はあるが、日本遺産になる1つのストーリーの取組みが、文化財全体を底上げするものにならないといけない。現状では、関連文化財群と今の文化財保護行政の課題の在り方について、深掘りが足りない。また、このストーリーを生かした教育や観光施策を考えていくということまで出していないと、日本遺産と歴史文化構想が乖離してしまう。これまで話題には出ていたので載っていないだけだと思う。書き足していたら。

市 序章の中でしっかり説明したい。

- ・ 4章でこれらのストーリーをどう生かして事業化していくのか。日本遺産はその事業に対して補助金を出すシステム。やりたくてうずうずしている感じを出さないと。日本遺産以外にも多角的な、文化財行政だけではない歴史文化構想を上手く文章化しておく必要がある。

市 関連文化財群の活用は6章207ページで少し触れている。序章でも強調し、6章でも厚く書けるようにしたい。

- ・ 210~213ページで保存活用区域をゾーニングしてネーミングされているが、5番の沿道集落エリアがほかと比べてしっかりこない。都市計画用語そのままという印象。せ

めて「街道集落エリア」などとしてはどうか。

市 条例の名称でも使われていたが、「街道」のほうが綺麗だと感じた。検討したい。

市 都市計画課とも話を詰めており、イメージも大事にしながら、制度との整合をどうするかも含め調整したい。

- ・ 川口と恩方を一体化したイメージはなかなか一本化した表現ができないのではないかと。それぞれの特性を示したほうが分かりやすい。

市 悩んで設定したところ。それぞれのエリアで取組が違っているが、制度でくくった。

- ・ 「沿道集落」は抽象的でわかりにくい。

市 213 ページの文章で、その点を表現しきれていないので、それぞれの取り組みがあることを明確にしたい。

- ・ パブコメを前提としているので、表現の部分も大事。
- ・ 歴史的な写真は多いが、動物や植物の写真がない。例えばイブキスマレなど八王子にしかないものもある。八王子の名前を冠したものを市民に示さないと。もっと植物相や動物相への目配りが必要だと思った。

今まで冊子が何回か送られており、毎回内容がガラッと変わっている。少しずつ分かりやすくなっているが、自分の指摘でどう変わったのか分からない点がある。

10 のはちおうじ物語について、これにこぼれた文化財をどう扱うか。10 に漏れたものはどうでもいいと捉えられがち。それ以外のものに対する関心が逆に薄くなってしまふのでは。10 が必ずしも網羅したものでないことを明記する必要がある。

「いつから人々は八王子に住みはじめたの？」など疑問形でキャッチフレーズがついているが、必ずしもキャッチフレーズと内容が合っていない。期待して読んでも答えが出てこない。むしろキャッチーな見出しとしないほうがいいのでは。市民にとって分かりやすいと思っているかもしれないが、逆に分かりにくくしているかもしれない。少し前にこのような形で文化財を紹介することが流行ったが、非常に難しい。質問があり、そこから文化財を集めるのではなく、質問を後から考えていると思うので、整合性が取れておらず、違和感があるものがある。たとえば千人同心。千人同心は文化を担う主体ではなく、副産物として文化を生んだだけなのに、文化人の集団のようにとらえられてしまう。「武士たちは～まちの礎を築いていった」については、まちづくりを第一に考えていたわけではなく、結果として城下町が整備された。城下町整備のために来たわけではないので、順序が逆転している。質問の形と内容をしっかり読んでタイトルを考えないと。

市 これまでいただいたご指摘への返答が十分にできていないことは心苦しいところ。いただいた指摘はしっかり受けとめて議論して修正している。気になったところは個別に確認いただきたい。

市 漏れた文化財について、入っていない文化財もきっちり保存・活用する必要がある。200 ページ基本方針（2）アの冒頭 4 行でその旨を書いているつもりだが、不十分で

あればもっと厚くしたい。ひとつひとつの文化財を大切にするのは大前提なので、誤解を与えないように表現しなければいけない。

- ・ 基本方針（２）アのタイトルと中身に齟齬がある。「制度の運用」ではない。
- 市 Q&A が対応していない部分についてはしっかり検証する必要がある。見出しはもちろん市民に誤解のないように注意を払いたい。いまは八王子の歴史に興味を持っていただくことが大事と考えて Q の形にしていた。最終的なところで委員の皆様の意見をいただければ最終判断できると思う。動植物の写真についても指摘通りなので、追加する。
- ・ 関連文化財群が 10 ではないことを明記するには、98 ページの関連文化財群の構成で、下に表があるが、これだけではなくて、組み方によって関連文化財群が変わる、市民の皆さんも文化財を自分なりに考えていくように示唆しては。この 10 は例えばであって他にもあるということはこのページで明記しては。
- 市 漏れた部分もだが、新たに文化財を追加したときにも必要な記述だと思う。3 章である程度文化資源を挙げている。八王子の指定文化財の傾向としては個人所有の刀剣や神社で保管しているものが比較的多い傾向。それらについては従前の方法で保護ができるものだと思っている。網羅的に指定文化財の状況等のリストアップも行っている。入ってなくて違和感のある文化財があれば指摘いただきたい。
- ・ 相対的に、現状分析が大部分を占めている。検討会でもそういった部分に集中して意見が出るが、本来は基本構想、ビジョンについて市民に分かるような形で示されているかを頭に置いて、より分かりやすいように議論したほうがよいのでは。基本構想のダイジェスト版を作る際にも前提としておいたほうがよいのでは。
- 細かいことだが、第 2 章冒頭、囲みで歴史文化資源の考え方がある。この 2 番目に「モノやコト、ヒト」とあるが、カタカナで書いている。ヒトは生物学的な表記で、人文学的には言わない。あえて提示した意図はあるのだろうか。
- 市 40 ページでは「人物」と表記している。明確な意図はないので修正したい。
- ・ 第 6 章、第 7 章の活用の部分が抽象的。活用の部分は時間切れだったような印象を受けた。215、216 ページの各主体の役割は分かるが、217 ページで行政の推進体制が抽象的でわからない。はちおうじ物語をみると、保存・活用事例がある。観光まちづくりについては明記されているが、どう活用すれば地域活性化になると八王子市は思っているのか、わかりづらい。あるいは、基本構想なので、この程度の書きぶりにしておいたほうがよいのであれば、そのように理解するが、どの程度まで書かなければならないものなのかわからない。
- 市 6 章以下については、ぎりぎりまでブラッシュアップしたいのが正直なところ。関連文化財群の中で行政だけでなく市民の事例も紹介し明確なことは書けるが、行政事業の中で、歴史文化資源の活用のつもりで実施していなくても、結果的に活用に繋がっている内容もある。関係所管に動機づけして次のステップに行きたい。庁内で様々な

活用事例を把握しているのもっと具体的に書き込みたい。たとえば給食の事例など。市における活用事例はもう少しまとめたい。市民については把握しきれていないものもあると思う。今後手厚くしていかなければいけないと思っている。

- ・ 今までのいきさつ上、新しい事例がそんなに出てくるわけではない。民間事業者等との連携というところを国としても求めている。枠内でどうコントロールしていくか。ある程度特徴的な景観が得られるところをユニークベニューとして力を入れていくなど、八王子で行われていなくても、こういう活用があります、民間事業者様に活用・発信をお願いします、という文章を入れたほうがよいのでは。ただ、あまりやりすぎると地元と衝突が起こりうるが。

市 事例については、関連文化財群であげていたり、庁内の照会、ワークショップで把握したりしている。これらをどのように発展させていくかが今後の活用につながっていくと思うので、しっかり書いていきたい。

- ・ 後半のボリュームが足りないという意見に絡むが、ユニークベニューなど、観光やMICEも含めた活用の仕方もあると思うので、それらも考えてはどうかと思う。また、かなり字面が並んでいるので、イラストなどアイキャッチなどを取り入れると、もう少しバランスがよくなるのではと思った。

市 MICEの視点は大事だと思う。

- ・ 観光の絡みで入れていただければよいと思う。
- ・ エクスカーションという言葉を入れていただけると、よりリアルになるのでは。
- ・ すでにいろいろ取り組んでいるので、それらをさらに進めていくと書けばよいと思う。いろんなことを文化財周辺でやってきた写真などを載せ、より効果的なもの、ニーズをとらえたものをやっていきます、ということでよいのでは。

市 商工会議所の事業や、伝統の玉手箱などの事例でも外国人が参加している。

- ・ 外国人や子どもが参加しているものをもっと取り上げては。今までにやってきたことの中にヒントがあると思う。その中で一番受けが良かったもの、ニーズに合ったものをやっていくようにしてはどうか。また、八王子城も私が子どもの頃はあんなに整備されていなかった。昔はどれが八王子城かわからなかったが、今では整備されてきたおかげで八王子城の姿が分かるようになった。文化財行政がこれだけ頑張ってきたということが分かる古写真など載せては。八王子市民でも知らない方がいると思う。ガイダンス施設があることも、もっと宣伝していい。

市 5章の中でも写真を使っていくような助言をいただいたので、その方向にしていきたい。

- ・ 文化財の本物を見せていくということもひとつのキーワードかもしれない。八王子城で一番驚くのは、北条が庭を作っていたなど本物を見る感動。逆に言うと、サービスの質も本物を意識する必要があるように思う。
- ・ 197 ページ以降にボランティアについて記述がある。既に活動している郷土資料館の

ボランティアや八王子城のガイドも踏まえた書き方をしたほうがよいと思った。また、各項目について、すでに取り組みられていることは写真を載せるようにしては。

- ・ ボランティアのこれまでの活動もしっかり評価する必要がある。

## (2) 日本遺産認定ストーリーについて

市 日本遺産認定ストーリーについて、歴文構想の関連文化財群のひとつである高尾山の魅力を語るストーリーの検討を進めてきた。高尾山の魅力を前面に押し出して八王子の他の文化財につなげていくという視点で考えてきたが、文化庁との事前相談では、高尾山周辺の文化財、八王子城や絹産業の魅力を語ってそれと高尾山のつながりから新たな魅力を見せるという切り口としてはどうかという話があった。

魅力的なストーリーにするためにはもっと精査が必要だが、現時点の案を資料2で示した。八王子城の魅力を十分に語れているか、絹産業の魅力を十分に語れているかなどの視点での検証が必要。

今回の検討会は、ストーリーの構成文化財を実際に見ていただく視察を考えている。半日程度では周り切れないが、例えば八王子城跡は訪れたことがあるので、絹産業にまつわる場所をもっと訪れようなどの意見があればいただきたい。

いままで組み上げてきたものと現状のストーリー案を踏まえてご意見いただきたい。

市 資料2の詳細は精査中なので、八王子城そのものの魅力をもっとアピールするための視点など、指摘いただきたい。

- ・ 文化庁で相談してきたときに、また、私が八王子以外の候補地を考える時にも感じていたことだが、日本遺産の制度を東京で考える時に難しいのは、地域振興にどう寄与するかという点。我々としては八王子城と高尾山の魅力を発信していきたいが、高尾山にはこれまでも十分に観光客が来ているという文化庁の反応がある。八王子城の魅力をもっと掘り下げて、八王子城と高尾山をセットにしてPRしてはどうかと。実際に八王子城を歩いてきたが、あそこに人を来させるためにはどういう仕掛けが必要か、ストーリーは大事だが、同時にどういう地域振興策があるか、日本遺産に認定されたらこの地域はこれだけ盛り上がるということをプレゼンしなければいけない。八王子市として、どういうハード、ソフトを用意しなければいけないのか、どういう活動をしていくのかなど、様式4、5などで夢を書く。そのために、実現できそうなアイデアをいただきたい。地域振興になること以上に、メディアでも地域の人でも、賑わいをもう一つ持たせるためのアイデアをご示唆いただきたい。日本遺産というプロジェクトを使って文化財を見に人を来させる仕組みだということが文化庁の根底にあるので、そこを押さえておく必要がある。
- ・ 八王子城跡から2kmのところに住んでいて至近距離で見ている。毎年12月に北條氏照まつりをやっている。200人くらいの騎馬隊が高尾街道2kmくらいを練り歩く。今

年で6回目になる。そういう「まちおこし」もやっていて、東京都から補助金ももらっている。主催者発表で最初の頃十何万人来て新聞に掲載された。継続してやっていて、それも一つの起爆剤になる。また八王子城跡祭りも今年第1回を行った。落城日の6月23日に合わせた梅雨の最中での開催だったが、徐々に地元に着した夏のイベントとして、夏の陣としてやっていく。秋の陣が武者パレード。

- ・ 観光まちづくりの分野だと、地方を中心に、入込客数をあまり重視しなくなっている。国交省で観光まちづくりのガイドラインを作っているが、人数のことはあまり言っていない。東京はどんどん人が来るので介入する必要がないかもしれないが、地方では何らかの刺激を与えてくれる人材が面白がって来てくれる場がよいだろうと、クリエイティブシティ、クリエイティブコミュニティを作れるとよいという考えが出てきている。日本遺産の文脈で使えるのは、スタディツアー。単に学ぶだけの修学旅行のようなものもあるが、社会的な課題を解決するためのヒントを現場で発見してその後考えてみようということをいろんな地域で、ツアー形式でめぐってやっている。八王子市にあてはまるかわからないが、SDGs のことも書いているのでヒントになるのでは。数より、来る人の質を高めるためにどうしたらよいか。八王子は地方都市として開き直り、どういう保存と活用のモデル例があるのかを示すことが大事なのでは。

市 歴史構想でも基本的な考え方として、交流人口より活動人口を上げる考え方をとっている。八王子城のケースではないが、現役で稼働している古い工場に若い人が集まりクリエイティブなムーブメントが起きている。オープンファクトリーのような考え方も含め工場見学し、町を歩き、町の良さを再発見するイベントが先週あった。

- ・ 0041walk というイベントを行った。中野上町の郵便番号が由来である。中野上町にある昔からの事業者や、新しく移り住んで事業をしている方で新しく商店会が立ち上がり、まち歩きイベントを去年やり始めた。自分自身もボランティアとして携わり、なかなか住民としても知らなかった場所を知る機会となった。資料の裏面を見ていただくと、染物店では藍染をやっており、そこで染物体験をやっていただいた。若い女性が多く参加されていた。比較的参加者が若かった。そのほか、染物や機織りの工場を見て回った。中野上町は戦災で焼けなかったので、古い工場がかなり残っている。マニアックだが、面白さが眠っているまちだということがイベントを通して分かった。体験を織り交ぜながら実際に見てもらおうということは、今の若い世代に面白みが伝わる可能性があると思った。

市 地域活性化計画を審査で出す必要があり、事例としてうまく活用できればと思う。高尾山や八王子城でもそのような提案ができれば。ストーリーの4で、八王子城の魅力のひとつとして、落城後真空パックと書いているが、手が入らないまま昭和の時代に発掘されたということで、戦国の状況を非常にとどめている。下から4行目で書いているが、今後も調査研究を市民参加の仕掛けもしながら進め、新たな発見ができるかもしれない。現状に対しての価値もあるが、今後の調査研究の中で魅力が生まれてく

るかもしれないことが、ひとつの視点。珍しい遺構も魅力として書けるのでは。現状の価値だけでなくこれからの価値を書ければ。

- ・ 昭和 40 年代に浅川駅を改修したのは、高尾のネームバリュー。八王子にとって高尾は、活性化のきっかけを作った。高尾錦、高尾煎餅、タカオスミレなど高尾の名前が付いたものがある。それらを地域の活性化と結び付けていくのもひとつの方法。
- ・ 前回よりかなり高尾色が薄くなって八王子城が濃くなっている。いま八王子城に行くと、上に上がる参道が非常に危険。あれを整備しないで人が来て事故が多発しては困るので、整備を前提にしたストーリー作りをしていかないと。いままでは学術的な発掘調査のための整備だったが、これからは人が来るための整備。安全なコースの設定も必要。

すぐそばに国指定史跡の小仏関所がある。本来八王子城と小仏関所はワンセットで守りだった。もともとは富士関が下りてきて小仏関所になった。切り分けずに、まとめて首都圏の西の守りとしての意味を挙げておく必要があるのでは。

また、世界遺産で仁徳陵の石室の図があったが、この原本は八王子にある。小仏の関守の文化人のレベルが高く、国学者であり、堺で写して八王子に持ってきたため。単に関所というだけでなく、そこで花開いた江戸時代の文化も書いては。八王子城、高尾山、小仏関、これだけをワンセットにして書けばよい。

- 市 来年の予算に向け、動いているものを少しご紹介する。城跡祭りなどの話もあった。まず地域の方に八王子城跡を応援していただき、多様な主体に関わっていただきたい。整備について、林野庁や東京都のレンジャーの方と現地確認しているところ。歴史の道としてというよりハイキング、バードウォッチングのために注目を浴びている場所なので、関係者で手を携えて何かできないか、今後話し合いをしていこうということで林野庁とは話している。城跡については発掘をさらにかける必要があると思う。サグラダファミリアのように完成しない八王子城跡でよいと思う。職員の中で言っているのは、城跡の西側などは学芸の監修を受ける必要があるが、城下町については、市民採掘のようなことができないかなど考えている。40 年間にわたり土地を買い上げ、史跡の保護を行ってきた。草刈りなど管理も必要。そういったところに多様な方々に関わっていただいて、整備しながら場合によってはそこにあるものを再利用して、いろんな方に関わっていただきたい。

- 市 八王子城については活用計画が立てやすいメリットがある。

- ・ 視察について、新たな考え方も今回出たが、現地に行ってみて新たなアイデアが出てくると思うので、ぜひ計画していただけるとありがたい。

- 市 なるべく多くの方が参加できるように調整する。

## 2. その他

- ・ パブコメで出た意見への回答を考える機会を検討会として持ったほうがよいのでは。

市 意見の反映まで時間があるが、第8回検討会で検討したい。

3. 閉会

市 このほか何かあれば、随時ご意見いただきたい。

以上